

ここまで
分かった!

北陸新幹線ルート の遺跡調査

北陸新幹線延伸に伴い石川県が市内で発掘調査を行いました。新幹線のルートに沿って5つの遺跡を南北に細長く調査したことで、遺跡の中心や南北の範囲が詳しく分かりました(写真は全て石川県埋蔵文化財センター提供)。

問い合わせ 埋蔵文化財センター ☎47・5713



1 八日市地方遺跡

小松駅東側に広がる弥生時代中期の大規模環濠集落で、今から約2400年前に誕生し、交流とものづくりの拠点として、約300年間栄えました。今回の調査は新幹線小松駅の真下を調査したもので、集落西側の詳しい様子が明らかになり、東アジア最古となる柄付き鉄製ヤリガンナなど、数多くの発見がありました。



▲出土した柄付き鉄製ヤリガンナ(今回の展示は復元品)



▲出土した弥生土器と漁網錘

2 大領遺跡

市内初となる大きな道路跡が発見されました。都と地方を結ぶ古代の北陸道の内陸ルートだった可能性があります。



道路の幅(約8m)

3 島遺跡

飛鳥～室町時代の集落遺跡。今までの調査で、飛鳥～平安時代に焼き物や鉄の生産を担った人々の集落であることが分かっていました。今回の調査で、集落の広がりや鎌倉・室町時代にも人々が暮らしていたことが明らかになりました。

4 松梨遺跡

古墳～室町時代の集落遺跡。平安時代末期以降の建物や井戸の密集区が見つかるなど、集落の中心部分が分かりました。

5 園町遺跡

新幹線建設に伴い新しく発見された遺跡。今まで知られていなかった場所に弥生時代と鎌倉・室町時代の集落があったことが分かりました。

北陸新幹線小松駅開業記念特別展

観覧
無料

こまつを縦に掘る

～こまつの原始と北陸新幹線ルートの遺跡～

とき 6月1日(土)～9月23日(月・休)

ところ 埋蔵文化財センター

新幹線延伸に伴って発掘された5つの遺跡について調査成果や出土品を紹介します。昔から人・モノ・情報が集まる拠点であった小松の原始の交流や交通事情も併せてご覧ください。

